

『詳解 複素解析学』(第1版第1刷) 正誤表 (2024年9月5日作成)

出耒光夫・澤野嘉宏・野井貴弘／著

ISBN 978-4-535-78970-8

2022年9月刊行

日本評論社

ページ, 行など	誤	正
140 ページ 9-10 行目	$= 1+z+z^2+\cdots+z^J $ $< J+1$	$= 1+z+z^2+\cdots+z^{J-1} $ $< J$
140 ページ 11 行目	$\left \frac{1}{1-z} \right < J+1 + \left \frac{z^J}{1-z} \right < J+2$	$\left \frac{1}{1-z} \right < J + \left \frac{z^J}{1-z} \right < J+1$
344 ページ 問 4.1	(1) 6.	(1) 8.
348 ページ 問 5.2 (1)	$\dots = e^{R \cos \theta + i(\sin \theta - \theta)} = \dots$	$\dots = e^{R \cos \theta + i(R \sin \theta - \theta)} = \dots$
368 ページ 問 7.7 (1)	$\frac{1}{2\pi i} \oint_{\Gamma_m} \frac{dz}{z^2 \sin z} = \frac{1}{6} - 2 \sum_{n=1}^m \frac{(-1)^n}{n^2 \pi^2}$	$\frac{1}{2\pi i} \oint_{\Gamma_m} \frac{dz}{z^2 \sin z} = \frac{1}{6} + 2 \sum_{n=1}^m \frac{(-1)^n}{n^2 \pi^2}$
368 ページ 問 7.7 (2)	$\sin z = \cosh t = \frac{e^t + e^{-t}}{2}$	$\sin z = (-1)^m \cosh t = (-1)^m \frac{e^t + e^{-t}}{2}$
370 ページ 問 8.3 (2)	冒頭に右の文章を追加.	<p>f が ∞ を真性特異点に持たないことを示す. $f'(z_0) \neq 0$ となる z_0 につき, ある有界な開集合 U とある $\delta > 0$ が存在して, $f: U \rightarrow \Delta(f(z_0), \delta)$ は全単射となる. f が仮に ∞ を真性特異点として持つならば, ∞ に発散する複素数列 $\{z_n\}_{n=1}^{\infty}$ で $f(z_0)$ に収束するものが取れる. 大きな n については $z_n \notin U$ となる $f(z_n) \in \Delta(f(z_0), \delta)$ となる一方で, $f(U) = \Delta(f(z_0), \delta)$ となるために, f の単射性に矛盾する. 以上より, f は ∞ を真性特異点に持たない.</p>